

〔今昔物語十四〕入道覺念持法花知前生語第十三

今昔入道覺念略中法花經ヲ受ケ習テ訓ニシテ讀誦シケル而ルニ經ノ中ニ三行ノ文更ニ不被

讀略中覺念夢ニ氣高ク貴キ老僧來テ覺念ニ告テ云ク汝宿因ニ依テ此ノ三行ノ文ヲ不讀誦ル

也汝デ前生ニ衣魚ノ身ヲ受テ法花經ノ中ニ被卷籠テ此ノ三行ノ文ヲ噉ミ失ヒタリキ經ノ中

ニアリシニヨツテ今人ノ身ト生レテ出家入道シテ法花經ヲ讀誦ス經ノ三行ノ文ヲ噉失ナヒ

タリシニ依テ其ノ三行ノ文ヲ不讀誦也

〔今物語〕安貞のころ河内國に百姓有けるが子に蓮花王といひけるわらはありけり七なりける

年死けるが念佛申て西に向てかたはらなる人に我死たらば七月月一といはんにあけて見

よと云て死にけり其後人の夢に必あけよといふとみてあけてければ舍利に成にけり是を取

て人にをがませんとてかりそめにちやうをして入たりけるに此帳をほどなくむしのくひた

りけるを見ければ
歸命蓮花王 大聖觀自在 廣度衆生界 父母善知識とくひてはての文字の所に虫の死であ

りけるいとふしぎにめでたき事也

〔源氏物語橋姬四十四〕しみといふむしのすみかになりてふるめきたるかびくさながら跡はきえ

すたゝいまかきたらんにもたがはぬことのは其のこまごまとさだかなるをみ給ふ

〔拾遺愚草下〕まみ

おのづからうちおくふみの月日へてあくればまみのすみかとぞなる

〔新撰字鏡虫〕蚱於指反 蟻於女 蟬於女

〔倭名類聚抄九〕塵虫 本草云塵虫上音父一名蚱蟻伊威二音和

〔箋注倭名類聚抄八〕千金翼方證類本草中品有塵蟲無蚱蟻之名下品有鼠婦云一名蚱蟻二物

塵蟲